

兵庫県医師会医療支援チーム（第25陣）「宮城県災害支援現地報告」

加古川市加古郡医師会 三木 正敏

伊丹空港から仙台空港に着き、報道番組で放送されていた「がれき」「車」の山は大分片付けられている印象を受けました。しかし、道路の信号は、おまわりさんの手信号でした。第25陣は、被災後ちょうど2カ月目にあたりました。車で2時間で拠点である石巻中学校に着きました。まだ、第24陣の方々が巡回から戻ってこられていなかったのも日和山公園から石巻市の旧北上川下流を一望し、改めて津波のすごさを実感いたしました。

さて、石巻中、住吉中、山下中、山下小、図書館、公民館、での医療活動を行いました。受診者も減少し「自立」「日常への復帰」を目指し縮小方向に移ろうとしています。未だ、第25陣担当地区のみでも650人が、避難している現状です。実際、体育館等での避難生活を目の当たりにしますと、いろいろな思いがわきあがり、、、一日も早い仮設住宅、街の復興計画の提示を切望いたします。（多分、日本全国民がイライラしているでしょうが、、、）

拠点の石巻中学校では、生徒たちと廊下等ですれ違くと元気に「こんにちは」と、あいさつを交わします。この中学には、近隣の湊中学が避難してきており、一つの中学校に二つの中学、職員室がありました。5月から石巻市内のすべての小・中学校が授業を再開している状態です。しかも、校庭の三分の一は、自動車で埋め尽くされている中、生徒たちは元気に部活動も再開しておりました。

一日も早く子どもたち、被災者の方々が、いつも通りの「日常」に戻るよう祈ります。